

樋口健二 (フォト・ジャーナリスト) 講演会

今・フクシマ原発で働くということ ～被曝労働の真実～

原発労働者を撮り続ける報道写真家樋口健二(74)さんがいる。

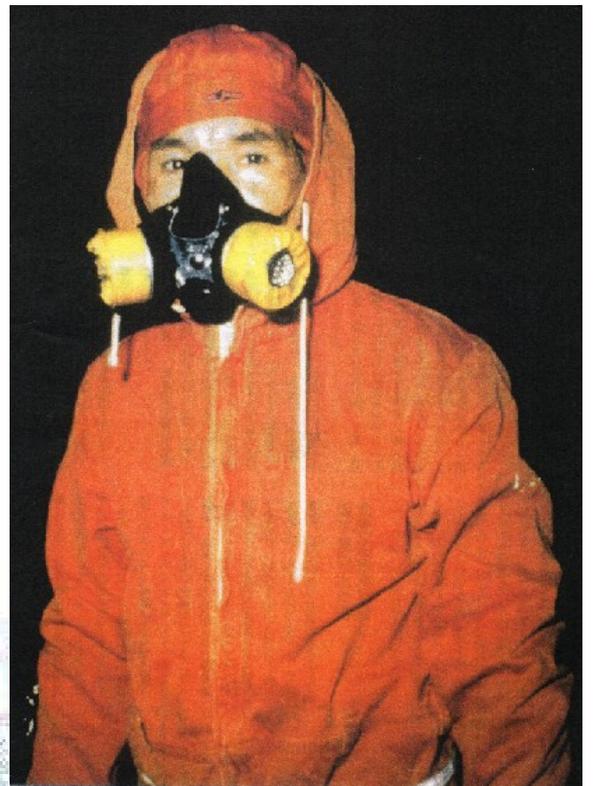
野田政権による強引な大飯原発再稼働の一方で、まだ収束しない福島原発事故と次々と生み出される原発被曝労働者！

樋口さんは、原発内部で働く労働者の被曝の実態を1970年代から取材、撮り続けてきた。

昨年8月出版した写真集「原発崩壊」(合同出版)は、福島第1原発事故で放射能に汚染された集落や被曝労働の実態を活写し、第17回平和・協同ジャーナリスト基金賞の大賞を受賞した。

撮影した写真に加え、被曝労働による健康被害を語る写真を掲載。弱い立場に置かれた人々の犠牲の上に経済成長を追求してきた戦後日本社会のあり方を問う。

講演会では原発の危険性や健康被害、下請けの労働者にリスクが集中する構図について話す。



10/13(土) 午後1時30分～4時30分

会場:三島生涯学習センター(図書館)3F講義室

資料代500円

主催: 原発震災を防ぐ風下の会 連絡先: 055-973-5747 (金原)

共催: めまづ・浜岡原発を考える会 (予定)

函南・「原発なくそうミツバチの会」(予定)

後援: 朝日新聞静岡総局

